

## ～ 北海道更別村の紹介 ～

復興政策部復興政策課



更別村は北海道、十勝地方の南部にあります。東は幕別町、西は中札内村、南は大樹町、北は帯広市とそれぞれ接しており、十勝の母都市である帯広市から南へ35kmの地点にあります。

位置 北緯 42 度 39 分  
東経 143 度 11 分  
面積 176.90 平方 km  
東西 25.3 km  
南北 14.7 km

### ■沿革及び区名の由来

村名の「さらべつ」は、その昔サラベツ川、サツチャルベツ川流域が葦や茅に覆われた平原であったことを意味するアイヌ語の「サラ・ベツ」（葦や茅が生い茂る地）に漢字を当てはめたことからきています。

1947年 河西郡大正村（現帯広市の一部）から、幸震（こうしん）村、幕別村、別奴（べつぢやろ）村の3大字の各一部が分村、更別村成立。3大字はそのまま本村の大字に継承。

1948年 幕別町から、勢雄（全部）、弘和（一部）の2字を編入。本村内は3大字と2字となる。

1952年 3大字を3字に再編。

### ■産 業

日本の食料基地である十勝。その中にある更別村は、総面積の70%が耕地の代表的な農業地帯です。畑作は、じゃがいも・小麦・豆類・ビートの寒冷地作物4品に加え、スイートコーン・キャベツなどの野菜も栽培。輪作体系が整えられています。

畜産も盛んで、平成19年の畜産統計調査では乳用牛は6,300頭が飼養され、肉用牛も、黒毛和牛を中心に約2,000頭を飼養。耕種と畜産を合わせた農業産出額は、年間約100億円に及んでいます。

更別農業の特色は、日高山脈のふもとに広がる平坦な耕地を基盤とした大規模機械化農業です。その一端を垣間見るのが、1戸当たり4台超を誇る日本有数のトラクター所有台数。また、より安全・より安心な農畜産物の生産を目指して土づくりや減農薬を積極的に進めるとともに、環境にやさしいクリーンな農業も推進しています。

JAさらべつでは、でん粉かすや家畜糞尿などの農業廃棄物を再利用するため、堆肥熟成施設を造成し完熟堆肥の生産事業を展開。資源循環を通じて環境保全に貢献するこの取り組みが、環境保全型農業推進コンクール（平成14年度）で大賞に当たる農林水産大臣賞を受賞しました。

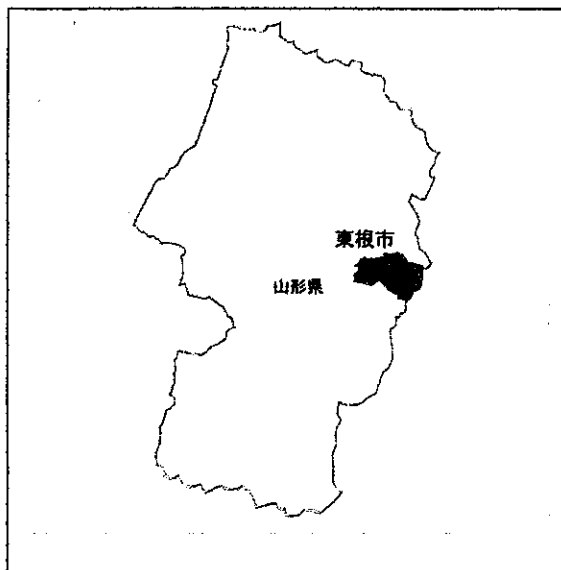
### ●1戸当たりの経営面積は43ヘクタール！

経営規模の拡大は昭和40年代から進められ、昭和41年（1966年）に1戸当たりの耕地面積が14.5ヘクタールとなり、十勝管内で1位を記録。

その後も拡大化が進み、平成2年（1990年）には2倍超の32.3ヘクタールに。平成17年（2005年）には総耕地面積1万ヘクタール、農家戸数は247戸となり、1戸当たりの経営面積は43.5ヘクタールにまで達しました。

## ～ 山形県東根市の紹介 ～

復興政策部復興政策課



東根市は山形県の中村山盆地の北部にあります。南は天童市、北は村山市と接しており、東の奥羽山脈を超えると宮城県仙台市があります。山形県内陸部の中央に位置し、主要国道や新幹線駅、高速道路 IC、空港が所在する交通の要衝です。

位置 北緯38度25分

東経140度23分

面積 207.17平方km

東西22.5km、南北14.3km

### ■市名の由来

大昔、村山盆地の真ん中に「藻が湖（もがうみ）」という大きな湖があり、この湖の東に連なる奥羽山脈の麓に最も早く拓けたところを東根と呼び、この地名が付けられたといわれています。

### ■市制施行日

昭和33年11月3日

### ■沿革

明治22年 町村制施行により、東根村、東郷村、高崎村、大富村、小田島村、<sup>ながとろ</sup>長瀬村の6カ村が成立。

明治29年 東根村が東根町となる。

昭和29年 東根町ほか5村が合併し東根町となる。

昭和33年 東根町が市制施行して東根市となる。

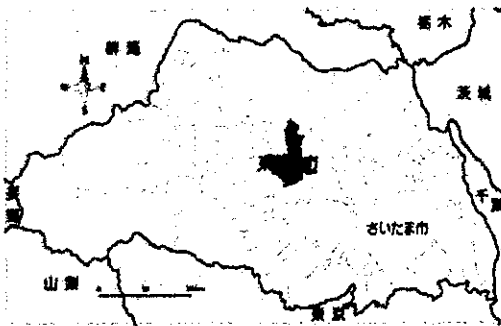
### ■産業

気候と地形が果樹栽培に適しており、さくらんぼの生産量は日本一、桃やりんご、ラ・フランスの生産も盛んな果樹王国です。

また、大森工業団地にはハイテク産業などが集積し、空の玄関山形空港の所在地として発展を続けています。さらには、土地区画整理による新都心の形成や山形新幹線延伸に伴うさくらんぼ東根駅の開業、そして東北中央自動車道の開通など、高速交通網の拠点都市として、これからも飛躍的な発展が期待されています。

## ～ 埼玉県東松山市の紹介 ～

復興政策部復興政策課



東松山市は埼玉県のほぼ中央にあり、県内の地域区分では西部地域の北端に位置しております。多くの街道が集まる交通の要衝として、古くは鎌倉時代から松山城（現在の行政区域は比企郡吉見町に存在しますが、松山城跡自体は当市と隣接している）の城下町、その後は松山陣屋の陣屋町として発展した比企地域の中心都市であります。

池袋へ東上線で50分程度、TJライナーで45分という環境から東京のベッドタウンとなっています。

また、埼玉県「エコタウンプロジェクト」や「健康長寿プロジェクト」のモデル都市に指定され、毎年開催される国際ウォーキング大会でアジア最大規模の「日本スリーデーマーチ」が開催され、豚肉のかしら部を使用し、独自の味噌だれを塗った「やきとり」でも有名な街でもあります。

位置 北緯 36 度 2 分 31 秒

東経 139 度 23 分 59 秒

海拔 34.871 メートル

面積 65.35 平方キロメートル

### ■市名の由来

1954年（昭和29年）7月1日に市制が施行されました。埼玉県で12番目、全国で398番目となります。市名は、松山部会町村合併連絡協議会で、「松山市」に決まりましたが、「松山市」では四国の松山市と混同のおそれがある（旧自治省）ため、改めて、市名を決定することになり、「東松山市」に決定されました。

### ■沿革

昭和29年 比企郡松山町・大岡村・唐子村・高坂村・野本村が合併し、東松山市となる。

### ■産業

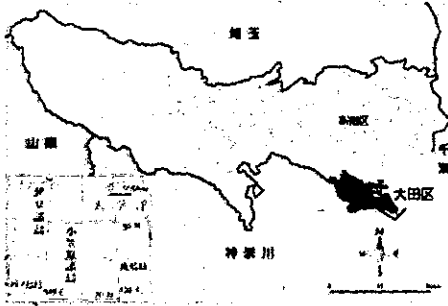
明治維新直後から旧松山陣屋士族によって松山製糸工場（現：日本シルク）に代表されるような企業が盛んに起こされてきました。重工業の進出は1940年（昭和15年）にディーゼル機器（現：ボッシュ）が同社初の工場を設置したことに始まります。現在においてもボッシュ東松山工場は同社の日本国内における中心的な工場で、この工場の誕生によって自動車機器（現：ボッシュに統合）などのボッシュ関連会社が市内に多く設置され、東松山市の経済に大きく関わっております。

高度成長期になると、1975年に関越自動車道東松山インターチェンジが開通し、新郷地区に東松山工業団地が造成されるなど、交通アクセスを生かした工場の進出が進みました。当市は埼玉県のほぼ真ん中で県内各地に向かう幹線道路が集まる場所であり、また広域アクセスにおいても関越自動車道に加え、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）に近いことから、近年では物流拠点として開設する企業が増加しております。

また、新たな2工業団地の整備も進み、県内有力企業のしまむらやヤオコーが進出するなど、企業誘致を積極的に行っております。

## ～ 東京都大田区の紹介 ～

復興政策部復興政策課



東京都大田区は東京都の南東部に位置する特別区で、東は東京湾に面し、北は品川・目黒区に、北西は世田谷区に接し、東京 23 区内では最南部に位置します。東部には東京国際空港があり、前身は大森区と蒲田区で、区の商業は大森駅と蒲田駅に、区の行政は蒲田駅に集中しております。海と川に臨み、武蔵野台地の先端に位置していることから、昔から人が住みやすく、交通の要衝でもあったため、区内には大森貝塚、多摩川台古墳群、池上本門寺五重塔など多くの史跡が点在しています。

また、水止舞や禰宜（ねぎ）の舞などの伝統芸能も数多く残されています。江戸期は農漁村で、特に海岸の大森・糎谷・羽田地区では海苔の養殖（昭和 37 年頃まで存続）が盛んに行われました。大正期以降、中小工場が進出し、低地部は住宅や工場が密集する商業・工業地域を形成し、京浜工業地帯の一部となっています。台地部は、関東大震災後住宅化が進み、田圃調布、雪谷、久が原など比較的緑の多い住宅地です。臨海部は埋め立て地からなっており、東京国際空港をはじめトラックターミナルやコンテナふ頭、市場など物流施設のほか、工場団地、野鳥公園など都市機能施設が整備されています。東京 23 区としては都心から離れ、吉祥寺や川口、松戸、市川と同じ都心 15km 圏であり、多摩川を挟んで神奈川県川崎市と接しております。また、2020 年に開催される東京オリンピックでは、先般、追加競技として復活した、野球、ソフトボール会場としての誘致を行っております。この様な中、国家戦略特別区域において外国人旅客の滞在に適した施設を賃貸借契約に基づき一定期間使用させ、旅館業法の規定が適用されない滞りに必要な役務を提供する特区民泊を認定し、国際都市にふさわしい施策も推進しております。

位置 北緯 35 度 33 分 41 秒

東経 139 度 42 分 59 秒

面積 60.66 平方キロメートル

### ■沿革及び区名の由来

昭和 22 年 3 月 15 日に、当時の「大森区」と「蒲田区」が一緒になって誕生したのが大田区です。その際、両方の一字ずつを取って命名されました。

### ■産業

大田区は大森に東京ガスが 20 世紀初頭に工場を設けて以来、東京都内で最大の工場集積地を形成し、川崎市、横浜市と共に京浜工業地帯の中核を形成しております。工業統計調査によると、区域は 4,362 の工場、35,741 人の従業者、779,587 百万の製造品出荷額があり、何れも東京 23 区最大であります。部門別では一般機械機器製造業が 1,630 工場、金属製品製造業が 1,014 工場と多く、特に大田区は多数の中小企業（平成 16 年事業所統計調査によると、製造業 6,173 事業所の内、従業員 9 名以下が 4,883 事業所）が事業を行っており、その多くは得意分野に特化しております。それらが補完的に相互利用することでまち自体がひとつの工場として機能しております。